

## ROSEリポジトリいばらき（茨城大学学術情報リポジトリ）

Title	発音に異常をもつ幼児のことばの指導
Author(s)	助川, みち子 / 相馬, 壽明
Citation	教育研究所紀要(24): 101-109
Issue Date	1992
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10109/8414">http://hdl.handle.net/10109/8414</a>
Rights	

このリポジトリに収録されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作権者に帰属します。引用、転載、複製等される場合は、著作権法を遵守してください。

お問合せ先

茨城大学学術企画部学術情報課（図書館） 情報支援係  
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/toiawase/toiawase.html>

## 発音に異常をもつ幼児のことばの指導

助川 みち子\* 相馬 壽明\*\*

### 1. はじめに

すすく育つ子どもの姿をみていると、まさかことばが普通に話せない等と思ってみないであろうが、話す年齢になって、なかなかことばが出てこない、単語だけでつながらない、話しはするが聞きとりにくく理解しにくい等、急に心配になってくるが多くなる。そしてほとんどの親はことばそのみを問題視することが多く、子どもの総合的な発達の上にことばが育つことを理解していない。

ここに報告する事例M子、H子は幼稚園入園を間近にして発音異常があるために友達に笑われたり、いじめられたりしないかと心配になって相談に来た子である。

二人とも、言語理解に多少の遅れをもつが、特に構音器官の形態や機能に異常はみられず運動機能はほぼ正常な発達を示している。遊び等の行動面や周囲に対する関心も正常で、時に欲求不満によるかんしゃく、自信喪失による引っ込み思案がみられる。よく話しをしたがるが手振り身振りになる時がある。始語期が遅れ、広範囲に発音異常がある等、二人に共通する点が多いが、ことばの指導では、M子は思ったより短期間でよい結果が得られ、よく気がつきしっかり者のH子は予想に反して長引いた。この二人を比較しながら構音の育ちについて考えてみたい。

### 2. 構音障害の原因

構音障害の原因として考えられる要因は以下の点である。

- (1) 身体面の異常(口唇, 歯牙, 口蓋, 顎, 歯列, 咬合) (2) 知的能力の障害  
(3) 情緒およびパーソナリティの障害, (4) 生育環境上の悪条件, ①不利な言語環境(適切なことばの刺激の不足, 誤った構音の手本, 家庭内での幼児語の使用), ②家庭内での2カ国語の使用, このいくつかの要因が複合しているのが一般的である(内山喜久雄監修「言語障害事典」岩崎学術出版社, 1987)。

二人の構音障害は、発語期の遅れが大きく影響していると思われる。ことばを獲得するためには子ども自身が正常な発達をしていることが大切だが、この発達を支えている基盤は親子間のしっかりした信頼関係である。人の話しを聞き入れ、記憶して、ことばは育っていく。しっかり聞こうとする意欲は母親への安心感、愛情心、信頼の情によって育まれる。母親からの暖い語りかけ、楽しい雰囲気の中でかわいがられて育つことが不可欠であろう。

現在、静かな親、忙しすぎる親が増えているという。二人の生育環境の上からもそれを伺うことができ、構音の未発達の要因ともなっていると思われる。

\* 那珂町立菅谷東小学校 \*\* 茨城大学教育学部

## 3. 対象児の実態

## (1) M子の実態

①対象児：M. S児 5歳 女児

②主 訴：ことばがはっきりしない。聞きとりにくい。(自主来談)

## ③生育歴

出産期：3200g, 異常なし。

乳児期：人工乳, よく飲み健康だった。よく寝ていた。

幼児期：始語1.8歳, 始歩1歳, 排便自立1.6歳, 二語文2.6歳, 静かによく寝ていて手がかからない子だった。思い通りにいかないとぐずり, 言い出したらきかない強情なところがあった。ことばが早口で聞きとれず上手に言えないので聞き返すと, おこって口をつぐんでしまうことが度々あった。(母親より)

④家族構成：父(会社員, 夜勤), 母(在家庭), 姉(小学3年生), 兄(小学1年生), 祖父(80歳), 本児の6人家族。父は夜勤のため本児と過ごすことが少ない。昼間寝ているのでさわがないように注意されることが多い。家の近くに友達がいないので一人遊びが多い。兄にいじめられて泣くことが多い。兄はことばの教室に通級中。母親はことば数が大変少なく, 問いかけに対して「はい」「えー」「そうなんです」と答えるのがやっとならなかつた。

⑤発音の様子：㊦行㊦行音-㊧㊧行音(かお-㊧お), ㊨行㊨行音-㊩㊩行音(さる-㊩う), ㊪行音-歪音(でんしゃ-でん㊫), ㊬行音-省略や歪音(ごはん-㊭あん, ふうせん-ふう㊮ん), ㊯音-㊰音(くつ-㊰㊱), ㊲行音-省略(テレビ-テ㊳ビ, ゴリラ-㊴㊵㊶)

## (2) H子の実態

①対象児：H. I児 5歳 女児

②主 訴：じょうずに言えないことばがある。(自主来談)

## ③生育歴

出産期：3250g, 異常なし。

乳児期：混合乳, よく飲み元気だった。

幼児期：始語1.5歳, 始歩11カ月, 排便自立1.8歳, 二語文2歳, 衣服の着脱は早くから出来て母の言うことがよくわかる子だった。2歳年下の弟の面倒をよくみってくれるので助かった。一人でよく遊んだ。ままごと遊びが好きで部屋中広げて遊んでも片づけはきちんと最後までよくやった。たよりになる子だった。(母親より)

④家族構成：父(会社員), 母(在家庭), 兄(小学校3年生), 弟3歳, 本児の5人家族。

父は, 子どもの面倒をよくみってくれ遊び相手になってくれる。子どもの将来を考え, 習いごとをさせている。本児は習字, 兄は習字, ソロバン, 水泳を習っている。近くに友達が多く親子共仲がよく, 昼食を食べさせることもある。兄は以前ことばの教室に通っていた。母親は教育熱心で, 世話好きでよく話し, 幼稚園の役員もこなし協力的なようだ。

⑤発音の様子：㊦行㊦行音-㊧㊧行音(かき-㊧㊨), ㊩行㊩行音, -㊪㊪行音, (うさぎ-う㊫)

- ㊦) ㊦行音-㊦行音(きしゃ-き㊦, き㊦), ㊦行音-省略(はっぱ-㊦っぱ, ひこうき-・こうき), ㊦音-歪音(くつ-㊦㊦), ㊦行音-省略(りんご-㊦ん㊦), こいのぼり, おたまじゃくし, ポテトチップ等長くなると言えなくなる。

(3) 初回の様子と所見

二人の発音は多くの音が置換しているのを何を話しているのか聞きとりにくい。M子の発音は、使用頻度の多い自分の名前や食べ物になると正しく発音されているものもある。何度か練習するといくつか言える音がある。M子の育った家庭環境から考えてみると、①父とは接する時間が少ない、②母のことばかけが少ない(ことばの数が少ない)、③姉はおとなしい、④兄はことばの教室に通級中等、本児に対して正しい発音を示してくれるモデルに恵まれなかったこと、話しかけてくれる人が少なく生きたことばを使う機会が少なかったことが考えられた。又、食事やおやつは市販のものが多く、プリン、ミートボール等、やわらかくて口当りのよい食物が好きなことから、口唇や舌の発達が思うように促されなかったのではないかとも思う。歪音が多いのは、構音の完成が間近である時期ととらえ、くせで歪む状態とは区別して考えた。

H子は、おしゃべりで元気よく担当者へ命令口調で話しかけてきた。ままごと遊びは父母の会話を再現したかのようにおませな女の子に見えた。様子を見ていくと、①他の遊びは途中で止めてしまい続かない、②絵本や紙芝居は最後まで見ていられない、③絵を見ての話しはつじつまが合わない、④数や色は言えるが実物と合っていない等、遅れがあること、集中できず次々と気が移ってしまい、落ちついて遊べないことがわかった。母は、H子の小さい頃の記憶がうすく、「心配がなかった」「甘えなかった」「抱っこもあまりしなかった」と思い出すように話し、「いけません」「ダメッ」「早くしなさい」が多く「ゆっくり話を聞いてやるのが少なかった」と涙ながらに話してくれた。又、幼稚園では先生にあれこれと話しかけ、友達がくると「あんたは関係ないの」と強い口調で追い返し、先生を一人占めしたがった。このようなことから親子のコミュニケーション不足が大いにあると思われた。

4. 指導をすすめるにあたって

(1) 発達検査

- ① 絵画語彙発達検査 M子：4歳11カ月時 SS.10(中) 4歳11カ月程度である。  
H子：5歳4カ月時 SS.7(中下) 5歳0カ月程度である。

② S-M社会生活能力検査

表1

領域	領域別社会生活年齢														
SH 身辺自立 Self-Help	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15才
L 移動 Locomotion	_____														
O 作業 Occupation	_____														
C 意志交換 Communication	_____														
S 集団参加 Socialization	_____														
SD 自己統制 Self-Direction	_____														

M子：  
CA  
5歳5カ月時  
SQ 88  
SA  
4歳9カ月程度である。

表 2

領域	領域別 社会生活 年齢														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15才
SH 身辺自立 Self-Help															
L 移動 Locomotion															
O 作業 Occupation															
C 意志交換 Communication															
S 集団参加 Socialization															
SD 自己統制 Self-Direction															

H子：  
CA  
5歳8カ月時  
SQ 81  
SA  
4歳7カ月程  
度である。

前記の検査からH子は理解面で遅れがあることがわかった。社会生活能力検査では経験不足から二人とも社会性に欠けており、特に意志交換に落ち込みがみられた。M子は自己統制に欠け、H子は、移動に欠けていたので、家庭では買物、近所への用たし等、外へ連れ出して多くの人に接していくよう心がけてもらう。又、たくさんの遊びを通し経験を増やしていくようにした。意志交換を豊かにするために母親を遊びに参加させ、触れ合い語り合いの場を設けてきた。

## (2) 指導計画

指導内容	M子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親も遊びに参加してもらい親子の遊びを覚えながら、コミュニケーションを育てていく。</li> <li>・絵本、人形、紙芝居等を通して、正しい発音のモデルを示し、聞いて、覚えさせる。</li> <li>・発音の基礎練習をくり返し行い、発音器官の発達を促していく。</li> <li>・遊びや学習の場面で十分にほめて、満足感を味わわせ、M子の意欲を育てていく。</li> <li>・遊びの中でルールのあること、がまんすること、思い通りにならないこと等知らせ経験を補っていく。</li> <li>・習得学習を通して、人の話しを聞く態度を培っていく。</li> </ul>
	H子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親指導として：1日1回必ず本児と1対1で接する時間をつくってもらい、絵本を読んだり、おしゃべりを聞くようにしてもらう。(家庭で)：手伝いや片づけが出来た時には、その都度ほめて、認めてもらう。</li> <li>・楽しい遊びに母親も参加してもらい、親子のコミュニケーションを育てていく。</li> <li>・発音練習は、正しい音を聞くことを中心に進め、人の話しを聞く態度を培っていく。</li> <li>・数、形、色は、遊びの中に計画的に組み入れ、知的発達を促していく。</li> <li>・体を十分動かす遊びで十分発散させ、合わせて運動能力の発達も促していく。</li> </ul>
	共通	<p>◎ごっこ遊び</p> <p>あそび (サッカー、チャンバラごっこ、野球、玉入れ、砂場あそび、水あそび、乗物ごっこ、ケータンやさん、お店やさん(電話)等 ※体を動かして遊ぶことを必ずとり入れる。</p> <p>口の運動 (・口形をはっきりさせて歌う。にらめっこ。笛やラッパ、ハーモニカを吹く。・風車、ヘビ笛、ピンポン玉サッカー、しゃぼん玉、コップ倒しや口唇音(パ、フ)の練習を楽しく遊びの中にとり入れて行う。</p>
指導内容	M子	<p>前期 10回 (中期) 10回 (後期) 10回</p> <p>うがい → 水を含む → ガラッと1回 → 5回つづける → 10回数えるくらい続ける (かんぼろカード、ごほうびシールの利用)</p> <p>発音練習 (ハ)行音 (カ)行音 (サ)行音 (シ)音 (チ)行音 文章、日常化(会話)</p> <p>(指人形、絵本、絵カード、ゲーム、ワークノート、パズル、すごろく (ぬり絵、きり紙、ふうせんつき、すべり台、ペープサート等とおして練習) (なぞなぞクイズ、人形あそび文庫で、おしゃべり)</p>
	H子	<p>発音練習 (ハ)行音 (カ)行音 (サ)行音 (シ)音 (チ)行音 (チ)音 半濁音、日常化(会話)</p> <p>(・円柱さし・型はめ、ぬり絵、切り抜き、○やシールで動ます ・H子の好きな楽器やうたをとり入れ、変化のあるプログラムにする。 ・短時間で区切り、あきないようにする。)</p>
	共通	<p>発達課題 (色(赤、青、黄、緑、白、黒) → ぬり絵、色板、仲間あつめ、色水やさん、乗物ごっこ 数(1~5、多い、少ない) → サイコロ、玉入れ、円柱さし、すごろく、パズル、買物ごっこ 名称(食物、乗物、動物) → 絵本、絵カード、なぞなぞ、ままごと、お店やさんごっこ</p> <p>・絵本の読み聞かせ ・発上人物(物)について → ・ストーリーの組み立て等 を加えていく。</p>

## 5. 指導の経過

(1) M子の指導（平成元年4月より平成2年3月まで、週1回60分、通算28回の指導を3期に分けた。）

### ①前期（1～10回）

活動内容：慣れるために親子と担当者でままごと、果物屋さん等のごっこ遊びをする。母の動きが遠慮がちで座っていることが多いので、役割分担をして、M子へ話しかけをするように仕向ける。

口の体操をして構音器官の発達を促す。しゃぼん玉を吹く。うがいをする。鏡に向かって息を吹きかけたりストローで紙片を吹いたり吸ったりする。大きな声でチューリップを歌う。絵本や紙芝居をはっきりした口調で読み聞かせ、正しい音を耳へ入れていく。㊸行音の口形模倣をする。

本児の様子：慣れて元気に遊ぶが、我がままで思い通りにならないとブイとおこった顔になり、途中でやめてしまったり物を母に向けて投げたりした。母は何も言えず困った表情をするだけで注意ができない。発音面では、うがいは口の中に水を含んでいられずガラガラ流れてしまったが、励ますと一生けんめいやるので4回目にはガラッと1、2回できるようになった。音のちがいを聞き分ける意味理解ができなかったが、口形模倣は上手にできた。㊸行音が会話の中でも正しく言えるようになり定着した。着席学習に慣れてきた7回目には「お腹がすいた」「ねむい」「ちょっと待ってて」と離席が多くなった。

所見：調子がよいので欲ばり過ぎて学習したことが負担になったようだ。又、兄と交互学習だったので本児と遊ぶ時間が短く不満であったことを考えて、兄の指導を別の担当者に代ってもらい、思いきって着席学習は休んでみた。本児の好きなボール当て、大型積木の家づくりは母も一緒になって十分に遊んだ。母親はどう動いていいかわからない様子なので、言ってあげると一生けんめい動いた。

### ②中期（11～21回）

活動内容：母親も参加してじゃんけん陣とり、玉入れ、巧技台渡り、鳴き声遊びをする。母親は声をかけないと自ら参加することは少なく、隅で眠ってしまったり、参加していても途中で抜けてしまうことが多いので「お母さんの順番」「交代」等、声をかけながら進める。

発音練習は、㊸音の練習をする。うがいが10回できるように目標カードをつくり、シールを貼りながらがんばらせる。㊸行音がたくさん含まれている歌（こおろぎ、どんぐりころころ、お母さん等）を口形をはっきりさせて歌う。パズル、すごろく、絵カード、手遊びで㊸音をたくさん言う練習をする。㊸や㊹㊺と㊻の混じった言いにくい単語（たかい、けいと）の練習をして定着しにくい音を強化する。

本児の様子：遊びが活発になり本児の方から母をさそうようになった。母は重い腰をあげながらも笑顔がみられ、子どもと遊ぶ時間が増えた。本児は経験不足から動物名や鳴き声はわからないものが多く、果物、野菜も知らないものが多い。じゃんけんを理解できるようになったが、負けると泣き出してしまう。以前のように途中でやめること

は少なく、待っていると気をとりなおして最後までやれるようになった。発音面では、㊦行音が言えるようになったら、今まで正しく言えていた㊧行音が㊦行音になってしまう混乱期に入った。母親には、時期がくれば安定することを伝え安心させた。20回目には、特別学習しなかった㊧行音が言えるようになり、単語で練習するとすぐに定着し、会話でも正しく言えた。

所見：中期は落ちついて学習し、聞く態度も育ってきたためか、学習したものが即、自分のものになり、発音の獲得は眼をみはるものがあった。母親は、近所へおつかいに行かせたり、父親も時々車で送迎してくれる等、本児のために努力している姿をみる事ができた。

### ③後期(22～28回)

活動内容：ルールのあるゲームやしりとりをする。㊦や㊧行音のつくことば集めをする。ごっこ遊びに使う果物やさいふをつくる。母親も参加させて一緒につくる。遊びたい物、使いたい物を自分から意志表示させる。

発音練習は、㊧行音のおさらいをする。意識しなくても言えるようにカルタ、しりとり、なぞなぞ、ことば集め等を通してやる。上手に言えない時はその場でとり出して練習し、その都度強化していく。㊦行音の練習をする。半濁音の練習をする。ウンガー、エンガーと㊦が鼻に抜けるように大げさにやって見せ、自分の顔を鏡に写させながらやる。

本児の様子：はさみの使い方、色ぬりが上手になった。ごっこ遊びでの発語が多く自分から進められた。母親が、「ここでは元気でも皆の前に行くとはダメなんです」と心配ごとを話しかけてきた。「ことばがよくなってこの頃おこらなくなった」と変化を認め喜びを表現してきた。発音は、ほとんどの音が言えるようになったが、以前言えなかった音が1つの単語に入っていると出来ない時がある(さいふ-さいふ㊦、へそ-㊦㊦)。㊦行音は下の動きを見せたり鏡に写させると割合早く覚え、言いにくい単語も一字一字切るようにして練習し、次第になめらかに言うようにすると言えた。

所見：時々言えない音があるが、日常生活の会話でも気にならない状態になり、遊びの中でも我がままをがまんできるようになった。遠方よりバスと徒歩で1時間以上もかかること、4月から幼稚園に入園するので社会性は集団の中で育ちあえるものと考え、ことばの学習は終了した。

## (2) H子の指導(平成2年1月より平成3年3月まで、週1回60分、通算34回指導)

### ①前期(1～14回)

活動内容：本児の好きなままごと遊びに母親も参加してもらう。おりがみ、絵かきは母親のリードにまかせ、親子の遊びの時間をつくる。音あて(タイコ、スズ、ラッパ、ハーモニカ等)やししゃぼん玉遊び、風車、にらめっこ、鳴き声遊び等で口形や口唇の運動をする。絵本、紙芝居を見たり聞いたりする。発音練習は、口の体操に加えて様子ことば(ピカピカ、ザーザー等)を練習する。絵本の場面に合ったことばを言ったり、音のくり返しのおもしろさを味わう。

発達課題：数は2、ふたつ、2個をままごと遊びでやりとりの中に入れる。又、シール貼りや体の部位で覚える。色は赤の理解の学習、ぬり絵や赤色のもの集めなどを通して覚える。

本児の様子：元気よく遊ぶが、担当者に命令口調で話しかけるので母親が注意すると、その場限りで、再び指示的な表現になる。母親は本児を送ってきてすぐ家へもどり内職をするので、4回目から遊びに参加せず帰ってしまう。長い間見送っていたがあきらめて遊び出す。音遊び、吹く吸う練習は喜んでやり、ゲーム化して競争するのをとても喜んだ。絵本、紙芝居はじっと聞いていられずに勝手にページをめくったり自分のイメージで話し出す。数、2の理解は、小さい物（おはじき、ビー玉等）になるとわからず、何回かくり返すとおこって顔を伏せてしまうことがあった。色の名前をたくさん言うが色の物が合っていない。学習している時は理解できたかのようにだが、他の色が加わるとわからなくなることが多い。

所見：よく話し何でも自分からやりたがるが、他人から指示されたり質問は受け入れられず、自分一人の世界で遊んでいることが多いので、H子に流されないようにし、働きかけを増やして行った。口調はやわらかく、小さい声で話しかけ、落ちついて遊べるようにした。

## ②中期（15～22回）

活動内容：着席学習がなかなか出来なかったので短い時間を集中してやる。口の体操はガラガラ、ぶくぶくうがいを重点的に行う。㊸行音の練習は口形模倣や人形で返事ごっこ等で練習する。㊹音は無声の状態㊹ーと出す練習をし、㊹音を意識化するため、㊹で歌う、㊹の文字を書きながら音に出してみる、㊹のつくことば集めをして強化していく。

発達課題：数は2～5までをカード合わせ、どっちが多い、数唱等をごっこ遊びの中にとり入れる。数にとらわれ過ぎて遊びが中断しないように気をつける。色は、赤、青、黄色の理解が促されるように色水屋さん、ぬり絵、色板集め、積木やフープ、玉入れ等で十分に行う。○や×を書く、斜線を練習する、大きな紙やます目の用紙で練習する。100点、○、×に興味を示したのでクイズの解答にとり入れる。

本児の様子：母が帰ってしまうのが気になって「お母さんは、お家なの」と何度も聞いてきた。本児と遊んで欲しかったが、内職をするというので無理にお願い出来ず、家庭内でできるだけ本児のために時間をとって触れ合えるよう励ました。しかし、本児は、絵本は読んでもらっていない。家で発音練習をさせられ、上手に出来ないと叱られると報告してきた。うがいは、口をほんの少しあけられる状態なので水がこぼれてしまうが、ごほうびシールが励みでがんばれた。発音検査時のテープを聞かせると「自分ではない」と認めなかったりする。この時期、幼稚園で発音がおかしいと笑われて泣いたが、これが発音学習に影響して一生けんめいやる意識をもたせた。赤色の理解ができたと同時にピンク、白黒もわかり、じゃんけんも理解できた。㊹音が10回練習中4回言えるようになり励みになった。しかし、着席学習が10分を越えるとききとてしまい、課題から逃げ離席が目立った。

所見：自分の発音がおかしいのに気づいた時期であり、学習の効果が期待できたので短時間で変化のある教材で集中して学習させた。数や色もわかり、じゃんけんの理解等、本児の成長が大きく見られた。発音については、幼稚園と連絡をとり皆の前での発表は特に配慮してもらった。



③後 期 (26~34回)

活動内容：口の体操はうがい10回を目標にする。口唇の練習は口の突き出し（アウ， エウ等）を十分に行う。㊸行音の練習をする。㊸音を強化し，㊸，㊸，㊸，㊸の順に学習する。㊸は㊸+㊸，㊸は㊸+㊸，㊸は㊸+㊸のように㊸音を中心に母音と結びつけて練習する。㊸行音を強化するため，今までまちがって発音していた㊸行音と結びつけても言えるようにくり返し練習する（㊸㊸㊸㊸，㊸㊸㊸㊸）。㊸行音の練習をする。音を伸ばすと言いやすいので，これを十分行い，その後短くして言う練習をする。

発達課題：数は13まで，色は8色を遊びの中にとり入れて定着させる。ルールのある遊びを通して，順番，交代，前後，方向，数等を総合的に学習する。

本児の様子：自分の発音を意識するようになってから変化は著しく，発音はもとより色や数も十分に課題が達成できた。まだ，長い単語や3ケタの数字の反唱はできない。簡単なルールを理解して遊べるが，思い通りにならないと途中でやめてしまう。母の迎えが遅いので遊んでいると途中にして帰るようになり，不満顔になったり，ゆっくりしていると母に強く言われておこりながら帰ることが多くなった。

㊸音が定着するまでに長時間かかったが，㊸，㊸，㊸，㊸行音は短時間で習得できた。主訴のいくつかの音は大体言えるようになったが，使い慣れないことばは聞きとれない単語（まぐろーま㊸㊸，トンネルーテングル）になってしまうので3月で終了できず7月まで延長し通算45回で終了できた。

(3) 発音の育ち

表 4

M 子 の 発 音																	
テ	初回	テ	㊸	ビ	こいのぼり	初回	㊸	い	の	ぼ	い	ご	初回	㊸	㊸	ん	
	5か月	テ	㊸	ビ		5か月	こ	い	の	ぼ	い		は	5か月	ご	㊸	ん
	11か月	テ	レ	ビ		11か月	こ	い	の	ぼ	り		ん	11か月	ご	は	ん
す	初回	す	い	㊸	つみき	初回	つ	㊸	㊸	ふうせん	初回	㊸	う	㊸	ん		
	5か月	す	い	㊸		5か月	つ	㊸	㊸		き	5か月	ふ	う	㊸	ん	
	11か月	す	い	か		11か月	つ	み	き		11か月						
う	初回	う	さ	㊸	しや	初回	㊸		㊸	れいぞうこ	初回	㊸	い	㊸	う	㊸	
	5か月	う	さ	㊸		5か月	き	し	や		5か月	れ	い	㊸	う	㊸	
	11か月	う	さ	ぎ		11か月					11か月	れ	い	㊸	う	こ	

H 子 の 発 音																	
テ	初回	テ	㊸	ビ	こいのぼり	初回	言	え	な	い	ご	初回	ご	㊸	ん		
	5か月	テ	レ	ビ		5か月	こ	い	の	ぼ		り	は	5か月	ご	は	ん
	11か月					11か月							ん	11か月			
す	初回	㊸	い	か	つみき	初回	㊸	み	き	ふうせん	初回	す	う	㊸	ん		
	5か月	㊸	い	か		5か月	㊸	み	き		5か月	ふ	う	㊸	ん		
	11か月	す	い	か		11か月	つ	み	き		11か月	㊸	う	㊸	ん		
う	初回	う	㊸	㊸	しや	初回	き		㊸	れいぞうこ	初回	㊸	い	㊸	う	㊸	
	5か月	う	㊸	㊸		5か月	き		㊸		5か月	れ	い	㊸	う	こ	
	11か月	う	さ	ぎ		11か月	き		㊸		11か月	れ	い	㊸	う	こ	

## 考 察

M子は、㊦行音を中心とする奥舌面を使う音が苦手で、H子は、㊣行音を中心とする歯音が苦手だった。発音異常が共通する単語を抽出し表4のように比較してみた。M子が短期間で終了した理由を考えてみると、①母親なりに一生けんめいM子と遊びM子が安定した、②外へ連れ出し体験させる等努力してきた。これは、M子の成長に大きく影響したものと思う。H子は、能力的に遅れはあったが、母親の様子をみると、①内職が忙しくH子と遊ぶのが少なかった、②H子に能力以上のことを期待し要求することがあった、③家で発音を注意して叱ることが度々あった等、家庭での言語環境を整えることができなかつたことが本児の落ちつきのなさや不満に結びつき、長引かせた原因になったのではないかと思う。母親とじっくり話し合える時間がとれなかつたことを反省している。

## 6. お わ り に

約1年間二人と接してきて「お母さんはことばの先生」「人は環境によって育つ」と言われることが実感として伝わってきた。M子の育った環境はことばの刺激が極端に少なくモデルに欠けていたこと、H子は、現代の忙しい生活の中で親の都合が先行して子育てがされてしまったことが、ことばの遅れの原因になっていた。どちらも親子のコミュニケーション不足は否めない。

二人とも人工乳、混合乳で育ち、母親に抱かれ膚のぬくもりを感じながらの授乳は少なかったであろうし、語りかけも多くなかつたにちがいない。ことばを育む体験が大変薄かつたと思われる。豊かな母子関係がことばを育てるのに大切であることを訴え、実行してきたはずであるが、家庭内までは限度があり、「はい、やっています」の返事が実際はどの程度まで実行されたか疑問でもあった。親はどうしても表面に出ている発音の変化を期待するので、①発音の変化について必ず知らせる。②変化は両親の毎日の努力の結果であること。この二つを伝え励ましながら次回へのつなぎにしてきた。幸いにして二人とも集団生活をしていくのに不自由を感じないまでに発音も育ち終了することができた。この事例から、①幼児の指導は両親と担当者の信頼関係と根気強さが特に求められると痛感し、②子どもをとりまく我々大人が子どもの発するサインに応じられるようゆとりある豊かな心をもって生活できたならば、子どものことばの発達、豊かな語彙の習得の効果をあげるができるということを学んだ。

これからも様々な場面に出合うと思うが、子を見つめ親との話し合いを深めながら共に育ちあえるように努力していきたいと思う。